

第5章 特別講演会・成果報告会の開催等

5.1 特別講演会の開催

道守養成講座の内、特定道守コースでは、共通科目に特別講演(2コマ、2時間)が前期・後期2回編成されている。特別講演では、インフラ構造物の維持管理の最先端の技術や維持管理システムを受講生が学ぶことが出来る。この特別講演は、道守認定者や自治体職員等に対して特別講演会として公開されている。道守認定者の学び直しの場合、継続教育の場合ともなり、技術的内容については、CPDS発行の対象としている。平成28年度には、特定道守コースが前期と後期の2回開催されたため、計4回特別講演会が開催された。その一欄を表-1に示す。

表-1

期 日	講 師	講 演 題 目	人数
前期 第1回 6月23日 (木)	九州共立大学 総合研究所長・教授 牧角龍憲	橋梁診断の楽しみ方(ものの見方) ～コンクリート道路橋の現地診断～	55人
前期 第2回 7月1日 (金)	九州工業大学副学長・教授 山口栄輝	橋梁の維持管理について ～橋梁の維持管理技術・既設橋梁 の長寿命化・橋梁と耐久性～	60人
後期 第1回 10月6日 (木)	高知工科大学学長特別補佐、 社会マネジメントシステム研究センター長、 企業家コース長・教授 那須清吾	アセットマネジメントの地方展開 ～現場の実態と従来システムの ギャップを埋める研究開発～	50人
後期 第2回 10月27日 (木)	埼玉大学レジリエント 社会研究センター長・教授 陸好宏史	橋梁の維持・管理の現状と最近の研究 -丈夫で長持ちする橋を目指して-	52人

会場：第1回工学部大会議室、第2回～第4回 総合教育研究棟多目的ホール

講師の先生方に橋梁の維持管理の現状と維持管理の研究成果の活用等に関するハード対策とアセットマネジメントシステムの構築について、最新の研究成果を用いてわかりやすい講演をしていただいた。維持管理についての体系だった講演は個々の要素時技術を学習段階にある受講生には、全体像が把握できる貴重な場となった。また、認定者からは実務経験を踏まえた質問があり、継続教育の貴重な場となった。



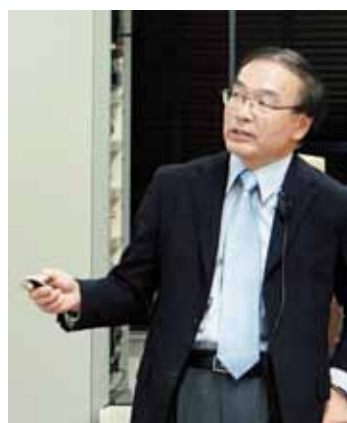
牧角龍憲氏



山口栄輝氏



那須清吾氏



陸好宏史氏



総合教育研究等多目的ホールでの特別講演会

5.2 成果報告会の開催

平成 28 年度“道守”養成ユニット成果報告会「地方の道をいかに守っていくか」は、去る平成 29 年 2 月 10 日に開催され、会場となった長崎大学文教スカイホールには約 200 人の建設・設計業関係者、国・自治体職員、ME 連携会議メンバー、一般市民、学生らが参加した。今回の報告会では、東京、福岡を始め県外からの参加が目立った。

報告会の冒頭では、主催者を代表して、長崎大学片峰茂学長とインフラ長寿命化センター松田浩センター長による開会挨拶がなされた。

来賓挨拶として、文部科学省高等教育局専門教育課視学官土生木繁雄氏に「専修学校による地域産業中核の人材育成事業」をお話しいただいた。

報告会としてまず、本センターの高橋和雄特任研究員が「平成 28 年度”道守”養成ユニット実施報告」を行い、本年度の事業内容、実施成果、“道守”ユニットの養成者数や通報状況等を報告した。

その後、本年度の受講者を代表して、道守補コースを修了予定の新上五島町役場青崎真樹氏、九州オリエン測量設計(株)田中甫脩氏、長菱設計(株)橋田安信氏および特定道守コースを終了予定の長崎測量設計(株)川下敏雄氏による受講者発表が行われた。

長崎大学 文教スカイホール
グローバル教育・学生支援棟 4F (長崎市文教町1-14)

対象 建設・設計関係者、国・自治体職員、学生

特別講演
「道路インフラマネジメントサイクルの展開と国内外への実装を目指した継続的研究」
東京大学大学院工学系研究科 教授 前川 宏一氏

講演
「ツタワルドボクの『共Do』～モノづくりからコトおこしへ～」
（一社）九州橋梁・構造工学研究会 ツタワルドボク研究分会 主催
福岡九州高速道路公社 企画部副直役 片山 英樹氏

「土木技術者がみた熊本地震」
（一社）リベア会 理事長補佐 松永 昭吾氏
(株)共同技術コンサルタント 福岡支店長 松永 昭吾氏

開会挨拶
長崎大学学長 片峰 茂

来賓挨拶
文部科学省高等教育局専門教育課視学官 土生木 茂雄氏

平成 28 年度“道守”養成ユニット実施報告
インフラ長寿命化センター 名譽教授 高橋 和雄
修了者発表
道守活動優秀者表彰

14:05～14:15 休憩

特別講演
東京大学大学院工学系研究科 教授 前川 宏一氏
「道路インフラマネジメントサイクルの展開と国内外への実装を目指した継続的研究」

15:30～15:40 休憩

講演
（一社）九州橋梁・構造工学研究会 ツタワルドボク研究分会 主催
福岡九州高速道路公社 企画部副直役 片山 英樹氏
「ツタワルドボクの『共Do』～モノづくりからコトおこしへ～」

講演
（一社）リベア会 理事長補佐
(株)共同技術コンサルタント 福岡支店長 松永 昭吾氏
「土木技術者がみた熊本地震」

17:20～17:30 閉会挨拶
長崎県土木部 技監 野口 浩氏

TEL:095-819-2880
Mail: nichimed@nd.nagasaki-u.ac.jp



開会挨拶をする片峰学長



視学官土生木繁雄氏



「平成 28 年度”道守”養成ユニット実施報告」をする高橋和雄特任研究員



青崎真樹氏



田中甫脩氏



橋田康孝氏



川下敏雄氏

次いで道守活動優秀者の発表があり、今年度は特定道守の(有)石本建設山本尚次氏、特定道守の(株)星野組三根孝紹氏及び道守補助員の鎌田勇氏の 3 人に、感謝状が贈られた。



山本尚次氏
(特定道守)



三根孝紹氏
(特定道守)



鎌田勇氏
(道守補助員)



休憩を挟んだ後は、東京大学大学院工学研究科社会基盤工学専攻前川宏一教授による「道路インフラマネジメントサイクルの展開と国内外への実装を目指した総括的研究」に関する特別講演がなされた。前川教授による特別講演は内閣府の戦略的イノベーション創造プログラムの中核を占める研究開発であり、SIPの60課題の成果を着実に社会実装につなげるために、様々な

教育・指導等を含めたマネジメントを実施していることを紹介したものである。データ同化による床版の余寿命評価に対しては画期的な成果と評価されており、平成28年度実施されたステージゲートでもきわめて高い評価を得ていると聞いている。前川教授の講演を聞くために、SIP関係者が全国から参加した。

休憩をはさんで後半の講演では、熱気あふれる九州の土木技術者お二方に講師をお願いした。

先ず、福岡北九州高速道路公社企画部片山英資調査役による「ツタワールドボクの『共D o』～モノづくりからコトおこしへ～」の講演が行われた。片山氏は(一社)九州橋梁・構造工学研究会ツタワールドボク研究分科会主査で、分科会は一人でも多くの土木技術者に対して①伝えるデザインの大切さを伝え、②やり方のヒントを提示し、③伝わる喜びをほんの少し共感し、④維持管理の大切さを市



民と共有するキッカケを造る、⑤伝わるために必要な継続性を確保するための情報発信の在り方をまとめるために設置された。分科会の活動と並行して、天神ドボク大学の開催等で多くの一般市民を巻き込んでいる実績等を紹介された。



次いで、(株)共同技術コンサルタント福岡支店松永昭吾支店長による「土木技術者が見た熊本地震」の講演が行われた。松永昭吾氏には長崎大学の道守養成講座の内、特定道守のプロジェクト演習を担当していただき、受講生に維持管理の考え方、議論の進め方等に対して大きな影響を与えている。今回は熊本地震の橋梁の被害と今後の維持管理・人材育成の在り方について実務に基づく講演をしていただいた。

3氏共に講演後には聴講者からの質問が多数あり、関心の高さがうかがえた。

最後に、長崎県土木部野口浩技監の閉会挨拶をもって報告会は盛況のうちに終了した。

「長崎の地域特性を考慮したインフラ再生技術者育成のためのカリキュラムの構築」実施報告

1. 実施体制

“道守”養成ユニットの技術者養成のプログラムである道守補コース、特定道守コースおよび道守コースのカリキュラムを教育プログラムに仕上げる取組を平成 28 年度と 29 年度の 2 年間に渡って実施し、カリキュラムを仕上げるとともに、自走化を図る計画をしている。このために、カリキュラムの改善の取組等に対して第三者の意見を聴取する「“道守”カリキュラム評価委員会」を設置した。さらに、既存の「“道守”審査委員会」および「“道守”運営委員会」において受講者アンケート内容の見直し、アンケート結果の分析、試験結果の検討を行い、改善に向けた取組を立案・実施している。

2. カリキュラム関係の実施内容

(1) 道守補コース、特定道守コースおよび道守コースの開催とカリキュラムの改善

道守補コースについては、長崎県内の認定者の地域バランスを考慮して、島嶼部である五島市、新上五島町および対馬市で開催した。特定道守コースについては、地域のニーズに応じて、新設の橋梁の上部工と下部工の施工・架設のカリキュラムを追加した。さらに、道守補コースは点検技術、特定道守コースは診断の技術をそれぞれ教授するように役割分担を明確にした。平成 24 年度の開催を最後に中断していた道守コースについては、道守補および特定道守認定者へのアンケート調査等により開催のニーズが高いことから平成 28 年度に再開した。従来の道守コースのカリキュラムで本年度に試行し、来年度に改善を図る。

(2) 受講者増に伴う演習・実習体制の見直し

道守の資格が公共工事および業務の参加資格や加点の対象になりつつあることから、道守補コースおよび特定道守コースの受講者が増大することが予想された。長崎大学のカリキュラムは演習および実習に重点が置かれているので、受け入れ人数に 20 人程度の上限がある。演習の班の増加、実習を 2 日間に分けて実施する等により、受け入れ人数の増加を図った。

(3) 講義の映像教材と補助テキストの作成

平成 26 年度から講義を録画・編集をした映像教材を道守補コースから順次作成しており、今年度は特定道守コースの後半を作成した。また、パワーポイントを教材として配布しているのに加えて、補足説明、練習問題等をまとめた補助教材を順次作成している。

(4) 各コースの講義・演習・実習のアンケートの見直しと分析

これまで受講者に実施していたアンケートの設問を見直し、理解度や到達度を自己評価できるように修正して、実施した。また、アンケートの結果を試験後の合否判定等に使用して、改善方策に活用している。

3. アウトプット・アウトカム

本年度道守養成講座によって、これまで認定者が少なかった特定道守が 43 人から 73 人に、道守が 12 人から 20 人にそれぞれ増加する見込みである。さらに、教材、シラバス、授業アンケート等が充実した。

道守広報誌「道するべ」の発行、成果報告会の開催、事業報告書の発行、これらのホームページへの掲載等により事業成果を広く公開する。

4. 調査等

(1) 道守養成講座の九州地域での開催に向けて、九州橋梁・構造工学研究会に「KABSE におけるインフラ再生技術者研修に関する検討会」が平成 28 年 12 月に設置され、検討を開始した。

(2) 道守認定者の組織化に関して新上五島町で道路愛護団体の結成を支援(五島地域で道守補コースの開催)した。

(3) 道守認定者のスキルアップ、連携等を図るために ME ワークショップ等に認定者を連携大学に派遣した。

(4) 3 者合同点検や道守通報等の道守活動に関する認定者からの意見聴取をした。

(5) “道守”養成ユニット運営協議会のメンバーから構成される「道守活用検討部会」において道守の技術者としての活動の場等を検討した。

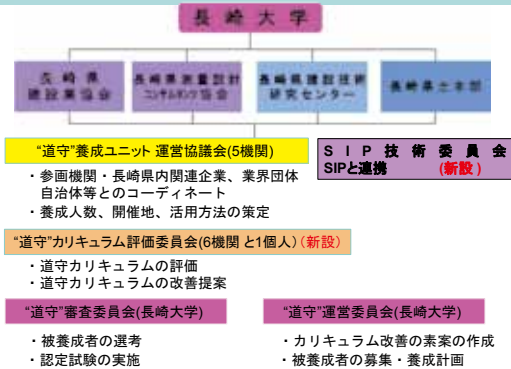
平成28年度「成長分野等における中核的
専門人材養成等の戦略的推進」事業

長崎の地域特性を考慮したインフラ再生
技術者育成のためのカリキュラムの構築

実施報告(1月20日現在)

長崎大学インフラ長寿命化センター

実施体制



平成28年度のカリキュラム関係の事業内容

- 1.道守補、特定道守および道守コースの開催とカリキュラムの改善
- 2.受講者増に伴う演習・実習の実施体制の見直し
- 3.講義の映像教材の作成(平成28年度特定道守)
- 4.各コースの補助テキスト作成(平成28年度特定道守)
- 5.各コースの講義・演習・実習のアンケートの見直し(理解度、到達度の自己評価)と実施、改善策の検討
- 6.受講生と担当講師・スタッフによるミーティングの定例化(質問への回答、講義への要望等のヒアリング、自己紹介カードの作成)、カリキュラム担当者会議の新設
- 7.道守カリキュラム評価委員会での検証・見直し
- 8.道守広報誌「道しるべ」の発行、成果報告会の開催、事業報告書の発行等による事業成果の公開

実施内容 教育プログラムとしての整備

- 地域版学び直しプログラム(レベル1:道守補)講座の実施
目的: 地域版学び直しカリキュラム(レベル1)の実施
対象、規模: 自治体職員、民間企業より3会場、60人程度
時期: 5月中旬、8月中旬、12月上旬より8日間(36時間)
手法: 講義(一部DVDを利用)、演習、実習
実施方法: 大学教授職員、外部講師および道守認定者による実証講座の実施
- 地域版学び直しプログラム(レベル2:特定道守)講座の実施
目的: 地域版学び直しカリキュラム(レベル2)の改善プログラムの実施
対象、規模: 自治体職員、民間企業より60人程度
時期: 6月下旬、10月上旬より9日間(48時間)
手法: 講義(一部DVDを利用)、演習、実習
実施方法: 大学教授職員、外部講師および道守認定者による実証講座の実施
- 地域版学び直しプログラム(レベル3:道守)講座の実施
目的: 地域版学び直しカリキュラム(レベル3)の試行と改善案の検討
対象、規模: 自治体職員、民間企業より5人程度
時期: 1月下旬より3日間(20時間)
手法: 講義、演習
実施方法: 大学教授職員、外部講師による実証講座の実施

道守補コース 認定者の地域バランス・島嶼部で開催

- 【前期】開催日:平成28年5月12日(木)~6月10日(金)のうち8日間
会場:[講義](下五島)長崎県五島振興局 (上五島)五島振興局上五島支所
[演習・実習]長崎大学および長崎市近郊
対象:自治体職員および民間企業
受講者:19人(自治体7人、民間12人)
- 【後期】開催日:平成28年8月17日(水)~9月16日(金)のうち8日間
会場:[講義](長崎)長崎大学 (対馬)長崎県対馬振興局
[演習・実習]長崎大学および長崎市近郊
対象:自治体職員および民間企業
受講者:30人(自治体4人、民間26人)
- 【12月期】開催日:平成28年12月1日(木)~12月22日(金)のうち8日間
会場:長崎大学および長崎市近郊
対象:自治体職員および民間企業
受講者:12人(自治体2人、民間10人)

道守補コース 36時間(8日間) 点検できる技術者

1期	2期	3期	4期	5期	6期	7期
	A-1 概要説明 事前テスト	A-1 構造物の劣化と 維持管理	A-2 長崎県の道路 構造物の現状	A-3 道路の役割		
		A-5 舗装面修繕材料: 部材工技術の発展	A-6 新設・補修の 維持管理	B-1 コンクリート橋の 設計・施工技術	B-2 コンクリート構造物 劣化原因とその事例	
		B-3 コンクリート 構造物の点検	B-4 コンクリート橋台・橋脚の 着目点と検査技術	B-5 コンクリート橋台・橋脚 小規模修繕事例	B-6 トンネルの 維持管理	
		C-1 鋼構造物修繕材料の特 徴と劣化	C-2 鋼構造物劣化原因と その事例	C-3 鋼構造物の劣化現象	C-4 鋼構造物の 着目点と検査技術	C-5 鋼橋脚と 小規模修繕事例
		A-4 道守ポータル 運用システム			C-6 鋼構造物の検査演習	
		B-7 コンクリート構造物検査演習				
A-8・B-9 斜交トンネル点検時の 着目点と点検方法			A-7・B-8-1 斜交の点検実習/トンネルの点検実習			
		B-8-2・C-7 コンクリート橋の点検実習・鋼橋の点検実習				

道路斜面の点検実習の追加、道路斜面が多い長崎の特徴

特定道守コース 養成人数の増大、橋梁の施工・架設追加

【前期】

開催日：平成28年6月23日(木)～8月5日(金)のうち9日間
 会場：長崎大学
 対象：自治体職員および民間企業
 受講者：18人(自治体1人、民間17人)
 分野：コンクリート構造8人、鋼構造3人、両方7人

【後期】

開催日：平成28年10月6日(木)～11月25日(金)のうち9日間
 会場：長崎大学
 対象：自治体職員および民間企業
 受講者：13人(自治体2人、民間11人)
 分野：コンクリート構造7人、両方6人

特定道守コース 49時間(1専門9日間) 診断ができる技術者

共通	講義 22時間	技術者倫理と安全工学(1)、環境工学(2)、構造物と化学(2)、情報処理(2)、構造物の計測とモニタリング(2)、トンネルの維持管理(2)、舗装の維持管理(2)、斜面の維持管理(2)、アセットマネジメント概論(1)、橋梁下部工の施工(1)、橋梁付属施設の施工(1)、特別講演(4)
コンクリート構造	講義 14時間 実験 4時間 演習 9時間	コンクリートの材料(1)、コンクリートの性質(1)、コンクリートの耐久性(1)、調査手法(2)、予測・表方法・判断基準(2)、コンクリート構造の補修・補強(1)、耐震診断・補強(1)、塩害に対する総合診断と対策(1)、補修・補強の失敗事例(1)、ASR・床板劣化に対する診断と対策(1)、コンクリート橋の架設・施工(2) 材料実験(4) 損傷部材の性能評価演習(1)、補修・補強計画立案演習(1)、プロジェクト演習(7)
鋼構造	講義 15時間 実験 3時間 演習 9時間	鋼材の基本的性質(1)、鋼材の防食(1)、主要材料としての鋼材(1)、損傷部材の評価(2)、診断のための測定(2)、補修・補強概論(2)、技術基準と最近の話題(2)、最近の補修・補強例(1)、補修・補強の失敗事例(1)、鋼橋の架設・施工(2) 材料実験(3) 損傷部材の性能評価演習(1)、補修・補強計画立案演習(1)、プロジェクト演習(7)

特定道守コースに平成28年度から架設・施工の新設

【平成27年度】

【平成28年度】



特定道守が橋梁上部工の新設の総合評価に加点された果の制度への対応

特定道守(新しく追加した講義)		
共通	アセットマネジメント概論	1時間
	橋梁下部工の施工	1時間
	橋梁付属施設の施工	1時間
鋼構造	鋼橋の架設・施工	2時間
コンクリート	コンクリート橋の架設・施工	2時間

認定者に対して補講、合格者に追加の修了証発行

道守コース 試行 マネジメントができる技術者

開催日：平成29年1月20日(金)～2月1日(水)のうち3日間
 会場：長崎大学
 対象：自治体職員および民間企業
 受講者：8人予定(自治体1人、NERC3人、民間4人)

	1限	2限	3限	4限	5限	6限	7限	8限
道守①	アセットマネジメント(1)～(4) 9:00～12:50			ライフサイクルアセスメント(1)～(4) 14:00～17:50				
道守②	リスクマネジメント(1)～(4) 9:00～12:50			建築一般(1)(2) 14:00～15:50				
道守③	道守総合演習(1)～(6) 10:00～16:50							

平成25年～27年中断、平成28年度から再開

養成人数

【中核事業:技術者教育】

コース	目標人数	受講選考人数
道守補	60	61
特定道守	60	58
道守	5	8

127

【中核事業以外:一般市民、高校生、自治体、JICA】

道守補助員	56人
工業高校インフラ体験実習	9人
長崎市土木技術職員研修	45人
JICA研修	15人

道守補助員コース 一般市民向であるため、中核の枠外

【第1回】

開催日：平成28年7月11日(月)
 会場：三菱日立パワーシステムズ検査(株)長崎事業部
 対象：三菱日立パワーシステムズ検査(株)長崎事業部社員
 受講者：30人

【第2回】

開催日：平成28年12月3日(土)
 会場：波佐見町総合文化会館2F
 対象：一般市民
 受講者：9人

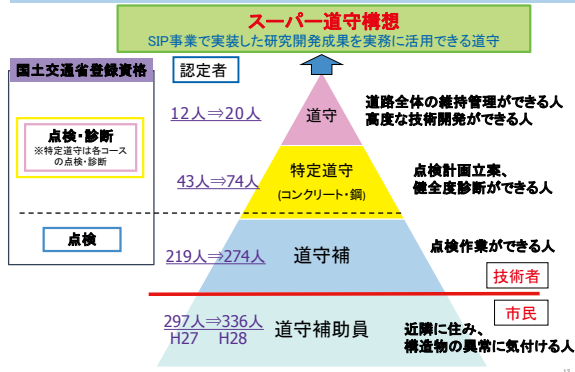
時間数：3時間
 受講料：無料
 講師：大学教職員及び道守認定者

【第3回】

開催日：平成29年2月7日(火)
 会場：大村市長崎県建設技術研究センター
 対象：建設業就業予定者
 受講者：17人



学習ユニット積み上げ方式の道守の構成と人数



平成28年4月時点の地区別養成者数



「道守」活用検討部会の活用の方向性

長崎県産学官連携建設業人材確保育成協議会において、
「道守活用検討部会」を設けて、活用を検討中(平成27年度～)

検討部会委員:長崎県、国土交通省、長崎市、長崎県建設技術研究センター
(NERO)、長崎県建設業協会、長崎県測量設計コンサルタンツ協会、長崎大学等

項目	インフラ長寿命化センター	公共機関	建設業
アウトプット	公共サービス(安全、快適、負担の軽減)の向上	公共インフラの適正な維持管理システムの構築	地域建設業の仕事の量質の確保
方向性	・「道守活用」の確立 ・「道守制度」システムの向上 ・点検等新技术の研究・活用	・維持管理体制の充実 ・維持管理システムの向上	・地域建設業への複数年一括発注 ・県内建設業が施工可能な工法の導入と普及
検討事項	・「道守」民間資格の活用方法の確立(入札契約制度等) ・「道守」認定制度のバージョンアップと費用負担 ・点検等の新技术の研究・活用 ・県内建設業が施工可能な維持管理修繕工法の導入・普及 ・情報共有システムの一元化	多様な体制と連携(NPOほか)	地域ごとの維持管理体制の構築
	道守制度の普及(コンソーシアム)		

道守認定者の技術者としての活用の検討と成果の一覧

実施主体	開始年	入札制度	対象資格
長崎県建設技術研究センター	2014	制限付一般競争入札 長崎県市町橋梁定期点検業務委託	担当技術者:道守補以上 管理技術者:特定道守以上
国土交通省	2015	簡易公募型競争入札方式 総合評価落札方式等(橋梁・トンネル・橋断歩道橋点検業務)(加算)	担当技術者:道守補以上
長崎市	2015	制限付一般競争入札 長崎市橋梁定期点検業務委託	担当技術者:道守補以上
長崎県	2016	総合評価落札方式(簡易型、特別簡易型) 橋梁上部工(工事)(加算)	配置予定技術者: 特定道守以上
長崎県	2016 (試行)	制限付一般競争入札 橋梁補修調査設計業務委託	管理技術者・調査技術者: 特定道守以上
長崎市	2016 (試行)	制限付一般競争入札、橋梁補修設計業務委託、橋梁等の設計業務委託	配置予定技術者: 特定道守以上
長崎市	2016 (試行)	制限付一般競争入札 橋梁補修工事、橋梁等改良工事	配置予定技術者: 特定道守以上

複数年一括契約、SIPによりスーパー道守の育成検討中

道守認定者のボランティアとしての活用等の一覧

実施主体	開始年	事業内容	対象資格
長崎県	2010	道路の異常通報 道路清掃活動 (総合評価落札方式(簡易型、特別簡易型)(工事)オプション)項目(加算)	道守補以上(建設業)
長崎県	2012	三者合同橋梁点検、 三者合同防災・トンネル点検	道守補以上(建設業、 コンサルタント業)
長崎県	2014	重点維持管理橋梁点検	特定道守以上(建設業、 コンサルタント業)
長崎大学	2010	道守養成講座の演習・実習の講師	道守補以上

認定後の活動について ボランティアとして、技術者として

～道守補の場合～

- 道守ポータル、もしくは道守シートによるインフラ構造物の異常の通報
- 愛護団体・自治会などによる道路パトロールもしくは清掃活動への参加
- 長崎県・OB・道守の合同点検(橋梁・トンネル・防災)、特定橋梁点検への参加
- 道守養成講座、インフラ体験学習などにおける講義・演習・実習への講師としての参加
- インフラ長寿命化センターまたは産業基盤維持管理技術研究会が主催・共催する行事(講演会・実習など)への参加

【長崎県外の認定者で上記の条件が困難な場合】

維持管理に関する講習会・研修会・講演会に参加し、4年間でCPD(CPDS)8単位以上取得

～特定道守・道守の場合～

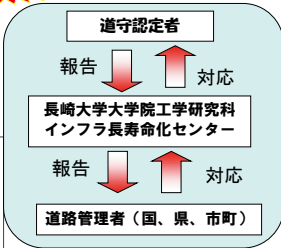
上記に加え、指定した課題に対する調査研究報告書の提出

①～⑤いずれか

4年に4回以上参加⇒4年後更新

認定後の活動(道路の異常通報)

道守シート通報のIT化 2013.4運用開始



認定後の活動(道路清掃、異常通報)

愛護団体
「道守養成ユニット
長崎地区」
平成24年6月設立



	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
	参加者数	参加者数	参加者数	参加者数	参加者数
第1回	30人 6/17	37人 6/22	48人 5/10	40人 5/10	30人 5/28
第2回	43人 8/18	24人 10/26	24人 9/6	23人 7/4	14人 7/23
第3回	31人 10/21	31人 2/1	30人 10/25	23人 10/5	34人 10/15
第4回	15人 12/23	28人 3/8	20人 12/6	21人 12/12	24人 12/10

認定後の活動(県の3者合同点検参加)(延べ人数)

平成24年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度	
点検地域	参加者数	点検地域	参加者数	点検地域	参加者数	点検地域	参加者数	点検地域	参加者数
長崎	16	長崎	7	長崎	9	長崎	10	長崎	9
五島	15	五島	4	五島	2	五島	4	五島	7
		大瀬戸	1	大瀬戸	4	大瀬戸	1	大瀬戸	2
		島原	3	島原	3	島原	1	島原	1
				五島	6	五島	1	五島	1
				香枝	1	香枝	1	香枝	1
計	31	計	12	計	18	計	22	計	23

平成24年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度	
点検地域	参加者数	点検地域	参加者数	点検地域	参加者数	点検地域	参加者数	点検地域	参加者数
長崎	6	長崎	15	長崎	11	長崎	1	長崎	4
五島	15	五島	3	五島	9	五島	10	五島	2
		大瀬戸	6	大瀬戸	3	大瀬戸	2	大瀬戸	2
		島原	3	島原	3	島原	1	島原	1
		五島	14	五島	8	五島	1	五島	2
		香枝	2	香枝	10	香枝	1	香枝	1
計	21	計	43	計	44	計	15	計	9

年度	重点橋梁点検
平成26年度	8人
平成27年度	6人
平成28年度	7人



認定後の活動(道守講座等の講師担当)(延べ人数)

講座名	講師担当者数
道守補助員コース 講義「コンクリート構造物について」 「鋼構造物について」 「道路・斜面・トンネルについて」講師 見守り活動について実習補助	32人 (H280人)
道守補コース 「点検演習」での非破壊機器の原理説明や 使い方の指導担当、現場実習の講師補助	39人 (H2810人)
工業高校インフラ長寿命化体験実習 「点検演習」での非破壊機器の原理説明や 使い方の指導担当、現場実習の講師補助	135人 (H2810人)



平成28年度の調査等

- 道守養成講座の九州地域での開催に向けて、九州橋梁・構造工学研究会に「KABSEにおけるインフラ再生技術者研修に関する検討会」を平成28年12月に設置
- 道守認定者の組織化に関して新上五島町で道路愛護団体の設置支援(五島地域で道守補コースの開催)
- 道守認定者のスキルアップ、連携等を図るために、MEワークショップ等に認定者を連携大学に派遣
- 道守活動に関する認定者からの意見聴取
- 道守養成ユニット運営協議会のメンバーから構成される「道守活用検討部会」において道守の技術者としての活動の場等を検討

これからと課題

- これから
 - 道守コースのカリキュラムの見直し・実証
 - 九州地域への道守養成講座の具体的な展開
 - SIP等の研究開発成果を実装できるスーパー道守の養成
 - 長崎県で道守の業務・工事・その他への活用方策の検討(一括複数年契約等)
 - 道守の組織化
 - 受講料・受験料・更新料の課金と受講者支援
 - 現場見学会・技術講習会の開催
- 課題
 - 映像教材(DVD)教材の活用方法
 - 受講者増への対応(質の低下の懸念等)

5.3 道守パンフレット作成（平成 29 年 1 月～）



数字を最新ののものにし、活用事例などを追加した。

スタッフからの挨拶

3月までお休みの間になりましたが、3月までお休みに戻りました皆様から、新しくセンターのスタッフになった皆様へ心よりコメントをしたいと思います。



【西村博久から一言】
皆様は3月末日までお休みの間、ご自身の仕事も頑張られて、とてもありがたかったです。お休みに戻って、2ヶ月が経過しています。まだまだ、調音とはまだませんが、ぼつぼつ日常の生活に慣れてきました。皆様で「尺指では練習ができませんよ」とおっしゃることも、ひとりで毎日、音階らしい活動だと感じていたのですが、皆様でも「練習」はかまらずに行っているようです。皆様のお力で、「音学」もより発展させて下さい。皆様でも、「音学」もより発展させて下さい。皆様でも「音学」もより発展させて下さい。



【新しくセンターのスタッフになった皆様へ一言】
皆様お久しぶりです。3月4日よりセンターに勤務しているスタッフです。皆さんの業務も研究も進んでいくのを見て私も心なりました。業務も進んでいくのを見て私も心なりました。業務も進んでいくのを見て私も心なりました。業務も進んでいくのを見て私も心なりました。



【西村さんから一言】
3月までお休みの間になりましたが、3月までお休みに戻りました皆様から、新しくセンターのスタッフになった皆様へ心よりコメントをしたいと思います。

編者後記

これからは、新しい時代の開発を進めたい。インフラ系の研究センターの役割です。近畿からセンターの推進力に期待しています。また、音学は音学推進に期待しています。音学推進には、音学推進に期待しています。音学推進には、音学推進に期待しています。音学推進には、音学推進に期待しています。



【西村博久から一言】
皆様は3月末日までお休みの間、ご自身の仕事も頑張られて、とてもありがたかったです。お休みに戻って、2ヶ月が経過しています。皆様で「尺指では練習ができませんよ」とおっしゃることも、ひとりで毎日、音階らしい活動だと感じていたのですが、皆様でも「練習」はかまらずに行っているようです。



問い合わせ先

長崎大学大学院工学研究科 インフラ系研究センター 連携育成ユニット事務局
〒852-8521 長崎市文政町1番14号 TEL 095-819-2280 FAX 095-819-2879
Mail: nichimori@ipc.nagasaki-u.ac.jp

